日常診療に役立つ 中獣医学

ミ・サ・キ・動物病院
西依　三樹

第59回 漢方の外用薬「神仙太乙膏」「中黄膏」「紫雲膏」

はじめに

今回は漢方の外用薬「神仙太乙膏（しんせんたいつこう）」「中黄膏（ちゅうおうこう）」「紫雲膏（しうんこう）」（**図1**）についてご紹介いたします。「漢方に外用薬？」と思われるかもしれませんが、生薬成分だけで作られている製品がいくつかあり、これが獣医臨床及び院内で期待以上の効果を発揮してくれます。火傷、褥瘡による皮膚欠損などの重症例から、痤瘡などの局所的な皮膚炎まで適用範囲も広く大変重宝しています。抗生剤やステロイド軟膏などに比べると即効性という面では劣るかもしれませんが、副作用らしきものもなく安心して使用できます。ご自身で試して頂ければお分かりになると思いますが、抗生剤軟膏のような患部への刺激性はほとんどありません。塗布した直後より痛みが軽減～消失していきます。合わせて肉芽形成促進に優れているため、治癒期間の短縮及び瘢痕化防止に優れています。

今回ご紹介する漢方外用薬3品は医薬品の扱いです。保険会社によりますが、動物保険も適用となります。ご紹介する漢方外用薬を見て頂くと似たような効能効果が並びます。しかしながら、各々得意とする適用症状があり、私の経験的な印象からの使い分けではありますが、宜しければご参考にして頂ければと思います。

図1．左から「神仙太乙膏」「中黄膏（ベルクミン）」「紫雲膏」

神仙太乙膏

最初にご紹介するのは神仙太乙膏（しんせんたいつこう）です。神と仙人が名前に入っていていかにも効きそうなネーミングですが、名前に違わずその効果は大変優れています。1,000年程前、中国の宋時代の薬物書収載処方に基づいて日本では昭和45年に発売されたものです（メルスモン製薬資料参考）。

■ 効能・効果

切り傷・痒み・虫刺され・軽いとこずれ・火傷など

■ 獣医臨床における適用症状・疾患

お勧めポイント

特に火傷や褥瘡部位にはガーゼに「厚塗りして患部に貼る」ようにして使用すると、当初滲出液が多く発